

高精保 第20号
令和4年8月23日

後援団体各位

高知県精神保健福祉協会長
(公印省略)

第61回高知県精神保健福祉大会の開催について(ご案内)

時下 ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日ごろは、当協会の活動につきましてご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

さてこの度、県民の皆様へ精神保健福祉に対する理解を深めていただくことを目的として、「第61回高知県精神保健福祉大会」を10月19日(水)高知県立県民文化ホール(グリーン)におきまして開催をすることとなりました。

この2年間新型コロナウイルス感染症蔓延のため現地開催は控えておりましたが、本年度につきましては、感染症対策を徹底し3年ぶりに現地開催をさせていただきます。

つきましては、本大会の趣旨をご理解いただき、職員のご参加を賜りたくご案内申し上げます。

なお、ポスター・チラシを同封しておりますので、お手数ですが掲示及び配布をしていただきますようお願い申し上げます。

問い合わせ先
〒780-8570

高知市丸ノ内1-2-20

高知県障害保健支援課内

高知県精神保健福祉協会事務局(担当:高橋)

TEL:088(823)9669

FAX:088(823)9260

E-mail:kochi-mhwa@mopera.net

第61回高知県精神保健福祉大会

こころの応急処置

～ひきこもりと家族支援～

第61回高知県精神保健福祉大会 プログラム

- PM 1:00 開会あいさつ 高知県精神保健福祉協会会長 数井 裕光
 来賓あいさつ 高知県知事 濱田 省司
 高知市長 岡崎 誠也
 高知県医師会長 野並 誠二
- PM 1:20 表彰式
- PM 1:30 休 憩
- PM 1:45 講 演
 演題 **家族が最初の支援者になるために身に付けたい
 5つのステップ 「ひ・き・こ・も・り」**
 講師 九州大学大学院医学研究院精神病態医学准教授
 加藤 隆弘
- PM 3:15 閉会あいさつ 高知県精神保健福祉協会副会長 山崎 正雄



[主催・事務局] 高知県精神保健福祉協会
 高知市丸ノ内1-2-20 高知県子ども・福祉政策部障害保健支援課内
 TEL: 088 (823) 9669 E-mail: kochi-mhwa@mopera.net

[後 援]

高知県・高知県教育委員会・高知市・高知市教育委員会・高知市長会・高知県町村会・(一社)高知県医師会・(社福)高知県社会福祉協議会・(公社)高知県理学療法士協会・(一社)高知県作業療法士会・高知臨床心理協会・高知臨床心理士会・高知県精神保健福祉士協会・高知県医療ソーシャルワーカー協会・(一社)高知県社会福祉士会・高知県精神障害者家族会連合会・(公社)高知県看護協会・(一社)日本精神科看護協会 高知県支部・高知県精神科病院協会・高知県精神神経科診療所協会・(独)労働者健康安全機構高知産業保健総合支援センター・高知県民生委員児童委員協議会連合会・特定非営利活動法人高知いのちの電話協会・全国ひきこもりKHJ親の会高知県支部 やいろ鳥の会・NHK高知放送局・高知新聞社・RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・高知ケーブルテレビ・エフエム高知



藤戸病院 デイケア

日時 令和4年 **10月19日水**
 午後1時～3時20分

定員 **300名**

入場無料

場所 **高知県立県民文化ホール(グリーン)**

手話通訳・要約筆記あり

第61回
高知県精神保健
福祉大会
大会要旨

こころの応急処置 ～ひきこもりと家族支援～

大会実行委員長 藤戸 良輔

本日は、第61回高知県精神保健福祉大会にご来場いただき厚く御礼申し上げます。開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の新たな変異株による感染拡大の勢いは依然として衰えることがなく、本年も連日、全国で多くの新規感染者が報告されてきました。新型コロナウイルスの感染拡大は、人々の生活に大きな影響を及ぼしています。

さて、2020年3月から欧州各国で新型コロナ感染拡大防止に向けた都市のロックダウンがおこなわれましたが、解除後も社会へ戻ることができないケースが見られることなどから、ひきこもり予備軍が増加しているといわれています。また感染拡大を機に、不登校・ひきこもりの子どもたちはますます増えています。

今回は、九州大学大学院医学研究院精神病態医学准教授の加藤隆弘先生をお迎えし、「家族が最初の支援者になるために身に付けたい5つのステップ「ひ・き・こ・も・り」」というタイトルでご講演いただきます。加藤先生はうつ病やひきこもりの病態解明や治療法開発のため、大学病院に世界初の専門外来を立ち上げられました。また脳内炎症に深く関わるミクログリアと呼ばれる免疫細胞の精神薬理的研究をされるなど、他方面でご活躍されています。

今回のメインテーマは「こころの応急処置」です。こころの不調に悩む人に対し、周りの人が少しでも早く気づき、よりよい初期支援（応急処置）をおこない、専門職につなぐかが重要です。どのような支援を提供すべきか、どのように行動すべきかを学ぶ機会になれば幸いです。

昨年の大会はWEB開催となりましたが、今大会は3年ぶりの現地開催となります。参加される皆様にとって、より有意義で充実したものとなるよう努めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



講演
タイトル

家族が最初の支援者になるために 身に付けたい5つのステップ 『ひ・き・こ・も・り』



講師

九州大学大学院
医学研究院精神病態医学
准教授

加藤 隆弘

かとう たかひろ

「社会的ひきこもり（以下ひきこもり）」は、6ヶ月以上にわたり、就労・学業など社会参加を回避し家庭内にとどまっている現象で、国内でひきこもり状況にある者（以下、当事者）は110万を越えると推定されている。思春期青年期に限らず8050問題といった高齢化が社会問題化している。演者は、大学病院に世界初のひきこもり研究外来を立ち上げ、国内外の医療研究機関やひきこもり支援団体と連携し、ひきこもりの多面的理解に基づく具体的な支援法の開発をすすめている。今回、演者らが開発した評価法・支援アプローチを紹介し、特に家族向けに開発した「ひ・き・こ・も・り」という5つのステップに基づく教育支援プログラムを紹介する。



第61回高知県精神保健福祉大会開催にあたって

高知県精神保健福祉協会 会長 數井 裕光

第61回高知県精神保健福祉大会の開催にあたり、多くの皆様にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

高知県精神保健福祉大会は、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、一昨年度は中止、昨年度はWEB開催となりました。今年度に入って、本感染症が一時的に収束しかけたかなと思われましたが、この原稿を執筆している2022年7月現在、高知も含めて全国的に、再び、急拡大して参りました。このような状況の中ですが、協会幹部の合議によって、今年度は現地開催を決定いたしました。これは私達、高知県精神保健福祉協会も新しいwithコロナ時代を生きていかなければならないと考えたからです。ただし、感染症対策を徹底するため、例年は講演1本とシンポジウム等で構成する、あるいは昨年度のように講演2本で構成するところを、今年度は講演1本とさせていただきます。

今年度の講演内容は、本大会実行委員長の藤戸良輔先生のご提案で、「ひきこもり」といたしました。ひきこもりは、思春期青年期から高齢期まで全年齢層の人に起こりうる重要なテーマです。本大会ではご家族向けの教育支援プログラムをご紹介いただけるのとことですので、悩んでおられるご家族の皆様にも期待していただけたと思います。

本講演会が、契機となり、高知県のよりよい精神保健福祉体制の実現等、今後の皆様の活動に役立つことを願っております。

講師プロフィール

九州大学大学院医学研究院精神病態医学 准教授。精神科医・医学博士・精神分析家。

九州大学病院「気分障害ひきこもり外来」主宰。

2000年九州大学医学部卒業。九州大学病院、牧病院、鮫島病院で精神科研修後、2005年より精神分析訓練と精神免疫学研究を開始。

2008年日本学術振興会特別研究員、2011年米国ジョンズホプキンス大学精神科「日米脳」研究員、2013年九州大学レドックスナビ研究拠点特任准教授（脳研究ユニット長）、2017年九州大学病院精神科・神経科講師を経て、2021年5月より現職。

専門は精神分析、集団精神療法、精神免疫学、うつ病、ひきこもり、自殺予防。

メンタルヘルス・ファーストエイド・ジャパン（MHFA-J）の発起メンバーで、会社員、一般住民やひきこもり家族へのMHFAの普及活動を通じて、うつ・自殺予防・ひきこもり打開のための啓蒙活動を展開。

近著に『みんなのひきこもり』（木立の文庫、2020年）、

『メンタルヘルス・ファーストエイド：こころの応急処置マニュアルとその活用』（創元社、編著、2021年）

『心のケアにたずさわる人が知っておきたい 精神系のくすり』（編著 加藤隆弘）（メディカ出版 2022年）